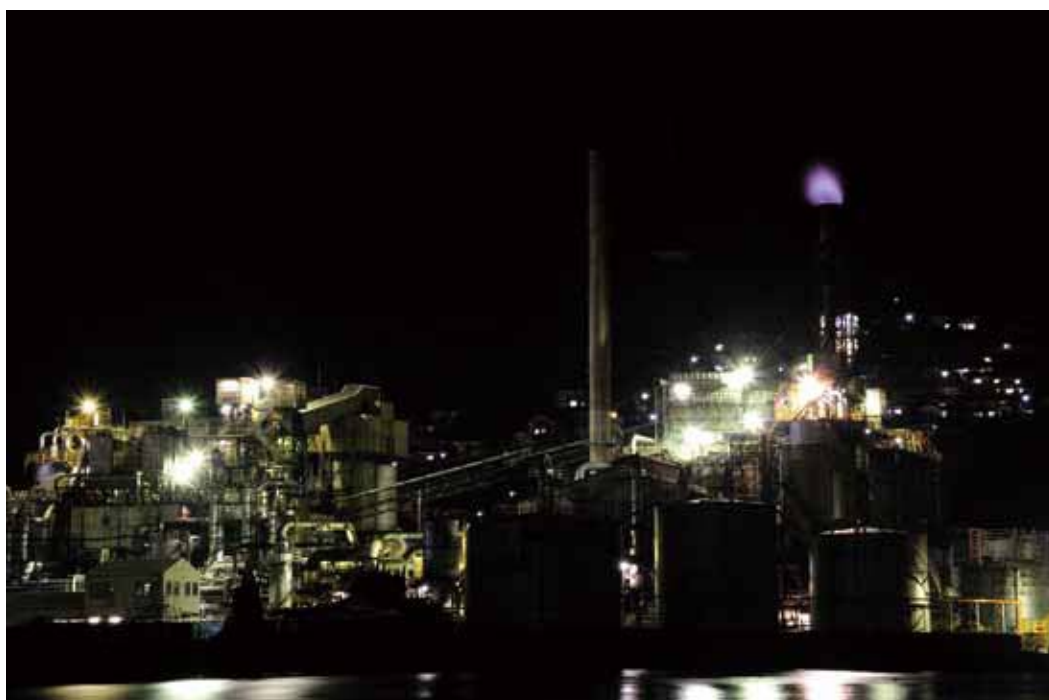


Responsible Care NEWS

2013 夏季号



レスポンシブル・ケア®



日化協

第 22 回

定時総会が開催されました。



第 22 回となる日化協定時総会が、5 月 29 日パレスホテル（東京都千代田区）にて開催されました。総会は正会員数 255 名のうち、240 名（委任状出席者 168 名を含む）の出席のもとで開催されました。高橋会長が議長をつとめ、会長挨拶に続き、下記議案について審議が行われ、いずれも異議なく原案の通り承認されました。

議案

1. 報告事項

平成 24 年度事業報告、収支決算書及び財産目録の件

2. 決議事項

第 1 号議案 理事補欠選任案の件

第 2 号議案 平成 25 年度事業計画及び収支予算の件



第 22 回 日本化学工業協会 定時総会における 高橋会長挨拶

皆様、本日はご多忙の中、第 22 回日化協定時総会にご出席いただき、誠にありがとうございます。開会にあたり一言ご挨拶を申し上げます。

市民権の確立

昨年の就任にあたり、日化協として取り組むべき重要課題として、「環境・安全分野での取り組みの強化」、「化学品管理での一層の取り組み強化」を取り上げました。更に、こうした活動を通じて、我々が目指すべき目標は、「化学産業としての市民権をより強く、かつ広く社会に浸透させていくこと」と申し上げました。

この 1 年間、私も事務局もこのことを強く意識して活動を進める中、まずは多方面あるいは多岐にわたる会員の皆様に向けての活動に力を入れてまいりました。

その一例といたしまして、会員の皆様へのサービスの強化ならびに協会活動へのご理解をより深めていただくことを目的といたしまして「会員説明会」を東京で 5 年ぶりに、大阪では初めて開催いたしました。また、明日（2013 年 5 月 30 日）は初めての試みとして『化学が創る日本の未来』をテーマとして産官学の講師をお招きし、会員の交流の場としてシンポジウムを開催する予



高橋会長挨拶（骨子）

開会にあたり、高橋会長が、「昨年就任の際、日化協として取り組むべき重要課題として、環境・安全分野での取り組み強化、化学品管理での一層の取り組み強化、化学産業としての市民権の社会への浸透、を述べた。これを受けて、事務局と共に会員説明会の実施、情報発信強化に努めてきた。引き続き産・学・官の連携を強化し、オール化学という名の下で、化学の普及活動を展開していきたいと考える。また、保安防災分野での取り組みの強化、アセアン各国への保安防災関連のワークショップの展開、人材育成にも引き続き取り組む。来年は日化協総会に合わせて日本初の ICCA 理事会開催を検討しており、会員の皆様にも協力願いたい。」旨を述べました。

定です。一方では、協会活動の各種レポートあるいは情報ネット等の充実によりまして情報発信の out put の数も増やしてまいりました。

いずれにしても、「市民権の確立」は言葉で言うことはやさしいのですが、地道に、ゆっくり時間をかけながら醸成していくものと考えております。これからの1年間の取り組みも、協会の活動と発信を地道に積み上げていかなければならないと考えております。また、特に本年度はより一層、産・学・官の連携を強化し、“オール化学”という名の下で化学の普及活動を展開していきたいと考えております。

この1年間の振り返りと、今年度の活動について

このような観点からこの1年間を振り返り、今後の活動について申し上げたいと思います。

この1年間で最大の課題と認識したテーマは、「保安防災分野での取り組みの強化」であります。大きな事故災害が継続して発生したことに当協会として非常に強い危機感を持ち、石油化学工業協会、石油連盟と連携して、「保安事故防止検討ワーキンググループ (WG)」を立ち上げ、化学産業として何を成すべきか詳細に分析

議事

会議開催に先立ち、議長より、日化協独占禁止法順守ガイドラインを確認し、適法で会議を運営することが宣言されました。

報告事項

平成24年度事業報告、収支決算書及び財産目録の件

議長の指示により、西出専務理事が、平成24年度事業報告及び収支決算報告の各案は、5月8日実施の監事による監査、5月13日開催の総合運営委員会、5月15日開催の審議委員会、5月17日開催の理事会において、それぞれ承認を得ている旨を報告し、内容について説明を行いました。引き続き、監事を代表して

し、「保安事故防止ガイドライン（初版）」を発行しました。この間、WGに参画いただいた皆様、ならびに様々な情報を素直にご提供をいただきました会員各社の皆様に対しまして、この場をお借りして御礼申し上げたいと思います。このガイドラインの発行により、事故防止への一定の道筋が作れたものと考えておりますが、これがスタートであり、会員の皆様のご協力を得ながら中身をより濃く、より具体的かつ使いやすいものとしていくことが使命であると考えております。従いまして、会員各社におかれましては、このガイドラインを有効に活用していただき、そこから生まれる様々なリクエストやアイデアを日化協にフィードバックしていただくことで、ガイドラインに不断の改訂を加えていきたいと考えておりますので、ぜひ皆様のご協力とご支援をお願いいたします。

次に、地球温暖化の分野では cLCA 活動が評価され、LCA 日本フォーラムの最優秀賞を受賞するという大きな成果を上げることができました。今年度も引き続き、化学産業こそが地球温暖化問題に対する“ソリューションプロバイダー”であることを強く発言してまいります。

また、化学品管理の分野では、化学品のリスク評価、



岸根正実監事が、5月8日に開催した監事会において平成24年度決算報告について監査をした結果、記帳等はいずれも正確であり、また経費の支出も適正かつ妥当であったことを報告しました。

第1号議案

理事補欠選任案の件

次に議長の指示により、西出専務理事が、理事1名の補欠選任につき、議場に諮りました。

議長より原案通り承認願いたい旨が議場に諮られ、全員異議なく、下記理事の選任が原案どおり可決承認されました。

記

理事 中嶋 成博 富士フィルム(株)
代表取締役社長 COO

第2号議案

平成25年度事業計画案及び収支予算案の件

次に議長の指示により、西出専務理事が、3月18日開催の総合運営委員会、3月19日開催の審議委員会、3月22日開催の理事会において、それぞれ承認を得て提案されたものである旨を報告し、平成25年度事業計画書及び収支予算書の各案について説明しました。

後、議長は本件原案どおり承認願いたい旨を議場に諮ったところ、全員異議なく原案どおり可決承認されました。

閉会

議長は以上をもって、一般社団法人日本化学工業協会第22回定時総会の全議事を終了する旨を述べ、議場にその協力を感謝し閉会を宣言しました。

管理、情報の公開を自主的に行うJIPS活動も進展し、安全性要約書のICCAへの登録は140件を超えました。さらに、新LRIの推進、また、台湾、ベトナム、シンガポール、マレーシアなどアセアン諸国で開催しているワークショップは、GHSやGPSの普及活動を推進するとともに、日本のプレゼンスの強化に努めております。なお、今年度は各国から要望の多い保安防災関連のワークショップも併せて開催してまいります。

人材育成の分野では、アカデミアあるいは行政との連携を深め、さらには教育機関とも連携をとり、「夢・化学-21」の関係者でタスクフォースを設置し、“オール化学”の観点で化学の普及活動の拡充について検討を開始しました。また、大学院の博士課程を対象とした化学人材育成プログラムでは、初の試みとして学生と企業交流会を開催しました。今年度は、インターンシップの活性化も計画しております。

2014年春季ICCA理事会の日本開催について

さて、当協会ではこうした国内の活動に加えまして、

50カ国以上が参加するICCA（国際化学工業協会協議会）のコアメンバーとして、国際的な化学工業に共通する諸課題にも積極的に取り組んでおります。今般、当協会初めての試みとして、2014年5月29日の日化協総会に併せて、東京でICCA春季理事会を開催する準備を進めております。

正式には6月のコロラドでのICCA理事会で承認を受ける見込みですが、世界の化学産業の中で日本のプレゼンスをより高めること、また、会員の皆様に海外の化学関係者との交流を深めていただく大変良い機会だと考えておりますので、ぜひ積極的な参加をお願いしたいと思います。日本の化学に携わる会員を中心として、行政、アカデミアにも参加していただき、懇親・交流の場を設けたいと思っております。このイベントは、日本の化学の市民権の向上に非常に大きなチャンスになるとの認識で準備を進めてまいります。

これからの1年間も、より存在感のある日化協を目指し活動を進めてまいりたいと存じますので、引き続きご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。私のご挨拶とさせていただきます。



安全表彰、技術賞、レスポンシブル・ケア賞の表彰式を実施



5月29日パレスホテルにて開催されました日化協定時総会の開会に先立ち、日化協安全最優秀賞・安全優秀賞、日化協技術賞（総合賞、技術特別賞、環境技術賞）、日化協レスポンシブル・ケア賞の表彰が執り行われました。

今回表彰されたのは以下の方々です。

【日化協 第37回安全表彰】

「安全最優秀賞」

旭化成ケミカルズ(株) 鈴鹿事業場

「安全優秀（特別）賞」

旭化成メタルズ(株) 友部工場（特別賞）

昭和アルミニウム缶(株) 小山工場

昭和電工(株) 先端技術開発研究所（特別賞）

田岡化学工業(株) 淀川工場

【日化協 第45回技術賞】

「総合賞」

三菱化学(株)：エチレングリコール製造のための革新的触媒プロセスの開発と工業化

「技術特別賞」

三菱レイヨン(株)：高精度繊維型DNAチップ「ジェノパール」の開発と工業化

「環境技術賞」

花王(株)：超濃縮衣料用液体洗剤「アタックNeo」の開発

【日化協 第7回レスポンシブル・ケア賞】

JSR(株)千葉工場：JSR(株)千葉工場のCO₂排出量低減活動

三井化学(株)：三井化学におけるメンタルヘルスの継続的改善活動

三菱化学(株)四日市事業所：廃棄物ゼロエミッション

三洋化成工業(株)：廃棄物削減チャレンジ

from Members

新市場・新地域・新商品でフッ素化学事 地球環境に貢献していきます。

ダイキン工業株式会社

執行役員
化学事業部長 酒井 弘雄さん

高機能・高付加価値のフッ素化学製品

——ダイキン工業と言えば、空調メーカーのイメージがありますが…。

酒井 当社は 1924 年に大阪金属工業所という飛行機の部品等を生産する会社として設立され、1933 年には日本で初めてフッ素化学に取り組み、フロンガスを用いた冷媒から空調機の製造・販売へと事業を拡大してきました。現在は海外売上高比率が 6 割を超えるグローバル企業となっており、2012 年度の連結売上高は 1 兆 2,909 億円、従業員数は 51,398 人です。事業分野別の売上構成比は空調・冷凍機が 86.8%、化学が 9.6%、油機・特機・電子システムが 3.6% となっています。一般消費者の方々には、エアコンのイメージが強いですよね。

——化学事業の概要を教えてください。

酒井 フッ素化学の専門メーカーとして自動車、半導体、情報通信、電池・エネルギーから建築、生活用品まで、幅広い分野に素材を供給しています。国内では淀川製作所、鹿島製作所が化学事業の拠点です。フッ素化合物は耐熱性、耐候性、潤滑性等が高く、電気特性に優れているなど、非常に高機能・高付加価値な製品です。従って収益性は良いのですが、価格も高いため市場が限定されてしまうという特徴がありますね。

——レスポンスブル・ケアは化学部門だけの活動ですか。

酒井 環境方針などは世界中の全拠点で共通ですが、保安防災や化学品安全に関しては化学事業における活動という位置付けです。1995 年の導入時は淀川製作所にレスポンス



知床における生物多様性保全活動

ブル・ケア委員会を設置して取り組んでいましたが、現在は SQCD 会議において環境・安全・品質等について議論しながら活動を推進しています。

地域の皆様に安心していただける工場

——導入当時の状況はいかがでしたか。

酒井 淀川製作所は住宅街に立地していますから、事故・災害が発生すれば企業の存続にも関わります。1973 年に塩酸ガスの漏洩により住民の方々にご迷惑をお掛けしたこともあり、以後、地域の皆様に安心していただける工場作りを目指して環境・安全活動に力を注いできました。従ってレスポンスブル・ケアが新しい活動という意識はなく、それまでの活動から違和感なく移行することができました。自前の取り組みに優れたシステム、効率的な手法を導入することで、レベルアップが図れたと感じています。特に文書管理を徹底して記録に残すという点は、お客様からの信用にも繋がったと思いますね。

——具体的な成果はありましたか。

酒井 ダイセルさんが始められた生産革新活動を導入したことにより、この数年間で安全成績が飛躍的に向上しました。環境パフォーマンスにおいては、当社は温室効果ガスの排出量が非常に多いことが悩みの種でした。これは HFC、PFC の温暖化係数が CO₂ の 1 万倍ということに起因しており、徹底的に削減に取り組んだ結果、両者の温暖化影響は 2005 年度を 100 として、2012 年度で 21 まで低減することができました。

——活動内容は世界の拠点で共通ですか。

酒井 環境マネジメントプログラム (EMP) に基づき、年間計画を策定して CO₂ や VOC、PRTR 対象物質等の削減をグローバルに推進しています。淀川製作所が起点となり、鹿島、中国、アメリカのプラントに発信され、3 カ月に 1 回、各拠点のマネージャー・エンジニアが集まるグローバル SQCD 会議で活動結果を報告、議論します。また化学品安全に関しては EHS 部が、新規化学物質の安全性評価や欧米の規制への対応を行っています。

研究開発部門における化学物質管理

——研究開発部門における活動は？

業を拡大し、



酒井 少量の物質しか取扱わないので、かつては意識が低かったことは否めませんね。EHS 部は、研究部門で発生した事故がきっかけで設置されました。構造式から安全だろうと判断して使用した新規物質が原因で、これを契機に EHS 部が研究開発部門で扱う化学物質についても管理し、新しい実験、重合等を行う場合は事前審査の実施を徹底することとなりました。量産化に移行する際も毒性試験を外部委託するなど、リスクアセスメントを確実にし、問題があれば適切な対策を施して安全な形で取扱います。

——社会貢献、コミュニケーションについて聞かせてください。

酒井 全社的には世界各国で、生物多様性の保全をはじめとする地域に根差した活動を行っています。淀川製作所では、1971 年から開催し恒例行事として皆様に親しまれている「盆踊り大会」、子供達を対象とした「ちびっこ剣道場」「環境スクール」等で地域との交流を深めています。開かれた工場を目指して工場見学を積極的に受け入れ、年に 1 回、自治会の代表者をお招きして環境・安全活動に関する説明会も実施しています。

——防災対策はいかがですか。

酒井 阪神・淡路大震災の教訓を受け、設備停止等の訓練を頻繁に行っていたこともあり、東日本大震災では鹿島製作所は殆ど被害がありませんでした。今度はその経験に基づき、各製作所において東南海地震等への対応に万全を期しています。淀川製作所でも津波に対する保安電源の嵩上げ、耐震補強といった対策を講じています。

——現在、力を入れている活動はありますか。

酒井 デュポンさんのプロセス・セイフティ・マネジメント (PSM) を導入し、淀川・鹿島の化学部門で 14 項目に亘る取り組みで評価を行っています。当初は、多くの課題がありましたが、最近是世界トップレベルまで向上しています。この取り組みは、海外の拠点にも水平展開しています。

環境・安全分野に 100 億円を投資

——様々な活動には当然、コストも掛かるとは思いますが…。

酒井 淀川のプラントは老朽化対策を考えていた時に阪神・淡路大震災にも見舞われ、また PSM の課題も多かったため、100 億円を環境・安全分野に投資するというトップの指示がありました。プロセス改善や変動費の削減によりコストダウ

ンを図りながら設備対策、環境対策を進めています。生産過程で発生するガスは特殊焼却炉に集めて無害化してから放出しており、近い将来にはフッ酸を蛍石の原料としてリサイクルすることも考えています。焼却炉や廃水処理設備にトラブルが起きると、プラント全体が緊急停止するシステムになっているので、2 系列化するといったリスク管理も進めています。

——今後の目標を聞かせてください。

酒井 フッ素化学はニッチな分野であり、この 10 年間の世界市場は 1 兆円以下で殆ど変動していません。従って事業拡大のためには、新たな分野を開拓することが必要だと思っています。一つはフッ素特有の高機能を生かした複合材料により、新しい市場を創造していくことです。風力・太陽光発電といったエネルギー分野に素材を供給することで、環境事業として当社自体の収益に寄与すると同時に社会にも貢献できると考えています。二つ目は ASEAN 諸国、インド、ブラジルといった新興国に対して、当社が培ってきたフッ素系製品、即ち安全性の高い材料を提供することです。三つ目は、新商品の開発です。フッ素化学に機械・電子の技術を融合させ、IT・情報分野において、これまでにない材料の創出を目指しています。淀川製作所にテクノロジー・イノベーションセンターを開設し、空調・化学・電子の技術者を集め、大学等にも参画していただいて製品開発の拠点としていく計画が進行中です。新市場・新地域・新商品でフッ素化学分野を拡大し、2015 年には空調に続いて世界をリードする事業に成長させ、地球環境にも貢献していきたいと考えています。



毎年 2 万人以上が来場する盆踊り大会

事業所の概要

北興化学工業(株)新潟工場は1961年(昭和36年)に東北、北陸、甲信越地方全般にわたる農業供給基地として、新潟県新発田市工場誘致第1号として操業を始めました。

現在も農業製造の拠点工場として、殺菌剤・殺虫剤・除草剤各種農薬の製造を行っています。

当事業所は、全国的に有名な「美人になれる温泉」月岡温泉がすぐ近くにあり、田園風景豊かな立地の下、115,000㎡の敷地内に生産設備と管理設備が効率的に配置されています。また、敷地面積の約半分が緑地帯として管理されています。事業所開場前からの松並木(防風林)を保存しつつ、四季折々の樹木を植樹し自然環境の維持、保全に努めています。

2007年(平成19年)には緑化優良工場経済産業大臣賞を、2008年(平成20年)には環境情報科学センターのPRTR奨励賞を受賞しました。

“緑に囲まれた工場”として地域からも高い評価を得ています。



工場全景

レスポンスブル・ケア活動

当社では、「環境・安全・健康に関する基本方針」に基づき、環境・安全・健康に関する化学産業の自主管理活動「レスポンスブル・ケア(RC)活動」を推進しています。「環境保全」、「労働安全衛生・保安防災」、「物流安全」、「化学品・製品安全」、「社会との対話」に積極的に取り組んでいます。全体のRC活動を統括する組織として、本社に「RC委員会」を設置し、RC活動を推進しています。当事業所ではRC活動の一環として新潟北地区の「地域対話」活動にも参加しています。

<環境保全>

1999年(平成11年)にISO14001の認証を取得し、「広げ



よう豊かな緑と環境保全 みんなで創ろうきれいな地球！」をスローガンに環境保全活動を推進しています。廃棄物については、排出削減に努め、適正処理を行っています。また、廃プラスチックや使用済の保護具については、処理業者や保護具メーカーと協力して再資源化を進めています。

日常活動として環境委員会を定期的に開催し、環境保全の進捗と有効性をチェックしています。

また、環境安全チーム内に美化部門を設置し、事業所開場前からある松並木、150本以上の桜をはじめ、多くの樹木等の維持管理を行っています。「緑に囲まれた工場」として環境保全活動を積極的に推進しています。

<保安防災>

危険物取扱では、消防署の指導を受ける中で長年に亘る安全な施設維持管理と危険物の取扱に関する無災害が評価され、優良危険物関係事業所として消防長官賞を2009年(平成21年)に受賞しています。危険物取扱事業所として地元消防署と連携を密にし、年1回の総合防災訓練をはじめ、緊急通報訓練や普通救命士講習等を継続して実施しています。

<労働安全衛生>

2006年(平成18年)にOHSAS18001の認証を取得し、「労働災害ゼロへの限らない挑戦！」をスローガンに月別の「安全重点項目、重点実施項目」を定め、リスクアセスメントの実施・2S活動*・ヒヤリハット活動・改善提案活動・指差呼称活動等の安全衛生活動を積極的に推し進め、従業員の安全意識高揚を図っています。

休業災害の発生は14年間なく、現在も無災害時間の記録を更新中です。

※安全は整理・整頓された職場からとの考えから、5S活動の原点に帰り2S(整理・整頓)の徹底に取り組んでいます。

地域とのコミュニケーション

オープンファクトリーをスローガンに、県内外からの工場見学を積極的に受け入れています。農業関係者をはじめ、医師会産業医研修、介護施設、NPO法人、小・中・高・大学生の方々が見学にみえています。昨年は50団体、総人数900名以上のご来場をいただきました。また、場内厚生施設の地元への開放も積極的に行っています。春は地元住民や従業員の観桜会会場、グラウンドはスポーツ少年団や社会人野球クラブの練習場所として提供しています。

開場以来、50年間地域のみなさんから愛される事業所の実現に向けて地域社会との共生を進めています。地域のみなさんとの交流に積極的に取り組み、地域と共に発展する事業所を目指しています。



事業所概要

株式会社JSP鹿島工場は、化学会社の工場が数多くある、鹿島臨海地区コンビナートの西部地区に位置しています。

主な製造品目は発泡性ポリスチレン(以下EPS)という発泡製品の原料樹脂ビーズです。EPSは軽量で環境にやさしい素材として魚箱・家電包装材・建材(断熱材)・土木資材・自動車部材などの製品として幅広く使用されています。

2011年3月11日の東日本大震災では、工場内の各所で地盤の液状化、道路の地割れや機器の沈下隆起が多数発生しました。基幹設備の被害は少なかったものの、ユーティリティ設備を中心に被害が大きく、一時は生産停止を余儀なくされましたが全社員一丸となって復旧工事を終え同年4月末には生産を再開することができました。この経験を活かし、更に災害に強い工場を目指しています。



工場外観

レスポンスブル・ケア活動

当社は2011年4月より、日化協RC委員会へ入会し、各事業所での活動を開始しました。

鹿島工場は、まだまだ経験が浅い活動ですが、環境・安全に関する活動は、従来から取り組んできた課題であり、全ての災害ゼロ、エネルギー原単位の低減、品質の維持・向上に取り組んでいます。

当社の「RC環境・安全目標」に掲げた、「無事故・無災害と時代に対応した環境保全の推進」においても、積極的な活動が大きな成果へ結びついています。

労働安全衛生

無事故・無災害と安定操業を達成するため、様々な取り組みを進めています。2013年の安全衛生スローガンとして「危険の芽 摘み取る意識で 指差呼称」を掲げ、毎月定期的な安全パトロールを実施し、ヒヤリ・ハットやリスクアセスメント等災害の未然防止に努めています。また、茨城県労働局の要請により、年末年始には労働災害防止キャンペーンを実施しています。その成果もあり、鹿島工場は、当社の中でも休業災害の少ない工場として、優秀な成績を上げています。現在2009年から4年連続で労災ゼロを継続中です。労災ゼロは、通常通りの業務だけではなかなか達成できるものではありません。日々の細心の注意の積み重ねが年間の大きな成果に繋がっています。

環境保全

エネルギー消費原単位に関しては、2010年度まで順調に低減できました。2011年度は前述の東日本大震災の影響で、工場の稼働停止や東北地方ユーザーの被災の影響で生産量が減少し、エネルギー消費原単位の悪化を招きました。

生産量が回復傾向となった2012年度は、取り進めてきた設備面の対策と管理方法の見直しにより計画的な省エネ対策が順調に進捗できました。

温室効果ガス排出量削減の取り組みについてもエネルギー消費原単位と同様に、改善されています。

地域とのコミュニケーション

鹿島工場が所在する神栖市では、防災意識を再認識する目的で、毎年1月に神栖市及び消防本部主催の「神栖市消防出初式」が開催され、鹿島工場は、毎年企業防災隊として参加しています。

「出初式」での一番の見所は、80台を超える消防車両の分列行進と火災消火を想定した模範操法であり、2012年1月には神栖市長を筆頭に、消防署の方々、神栖市民が注目する中、鹿島工場の精鋭による小型消防車4名模範操法披露の大役を果たしました。

鹿島コンビナート地域企業で構成される各種協議会にも積極的に参画するとともに神栖市民による一斉清掃活動(クリーンかみすの日)や交通安全週間における街頭での交通安全啓発活動及び神栖市納涼花火大会における防災活動等を毎年実施しています。

また、2012年より地域高等学校とのインターンシップ等、学生の就業体験受入を実施し、学校との連携を確立し情報交流を進めています。



消防出初式



神栖市交通安全



日化協シンポジウム 2013

～ 5月30日(木)経団連会館 国際会議場にて開催～

日化協は、2013年5月30日、経団連会館 国際会議場にて『日化協シンポジウム 2013』を開催しました。

初開催となるシンポジウムは、日化協と会員、また、会員同士のコミュニケーションを通じて“化学産業のプレゼンス向上”を図ることを目的として実施しました。

シンポジウムでは、ベストプラクティスの共有として、「安全賞」「レスポンシブル・ケア賞（以下、RC賞）」「技術賞」の各賞総評と「RC賞」「技術賞」の受賞講演が行われました。続いて、産・官・学の立場から今後の化学産業のあり方について考える契機として、東京大学の橋本和仁教授による基調講演「日本の成長戦略の新しい道筋」、また、産・官・学の代表者によるパネルディスカッション「化学が創るニッポンの未来」を実施しました。また、シンポジウム終了後には懇親会を開催し、交流を深めました。なお、来場者数は227名でした。



はじめに、日化協の西出専務より、会員のニーズで大きいのは情報発信及び共有化と交流の場の設定であり、今回受賞された方々の取り組みをぜひ参考にさせていただきたいと開会挨拶がありました。

●各賞受賞講演

「安全賞」は、安全表彰会議議長の東京大学・田村名誉教授からの総評の後、平成25年度は最優秀賞は旭化成ケミカルズ株式会社鈴鹿事業場が、優秀賞は旭化成メタルズ株式会社友部工場、昭和アルミニウム缶株式会社小山工場、昭和電工株式会社先端技術開発研究所、田岡化学工業株式会社淀川工場の4事業所が受賞と報告されました。引き続き、日化協の春山常務より受賞事業所の紹介として、各事業所の安全成績および安全活動についての事例紹介が行われました。

「RC賞」は、RC会員交流WG副主査の三菱レイヨン株式会社・大村様より総評に続き、平成25年度はJSR株式会社千葉工場、三井化学株式会社、三菱化学株式会社四日市事業所、三洋化成工業株式会社の4件が受賞したことが報告された後、受賞者による受賞講演が行われました。

「技術賞」は、技術賞審査会議議長の東京大学・御園生名誉教授より総評があり、平成25年度は総合賞として三菱化学株式会社、技術特別賞として三菱レイヨン株式会社、環境技術賞として花王株

式会社が受賞と報告されました。次いで、受賞者による受賞講演が行われました。

●基調講演

橋本教授からは、産業競争力会議などの議論を基に成長戦略の新しい道筋として、化学技術関係予算の拡充、イノベーション推進のための府省横断型取組の必要性などを講演いただきました。付加価値を得るタイミングが最終製品から材料やアフターサービス・運営などに移りつつある中で、素材・部品のすり合わせによって利益を上げている事例を紹介いただきました。さらに、新興国の追い上げが激しくなることから、「技術で勝ってビジネスで負ける」ことがないように、研究開発の初期段階からのビジネスモデルの検討が重要であることを強調されました。

●パネルディスカッション

パネル討論会では、橋本教授に加え、新化学技術推進協会の藤吉会長、経済産業省化学課の宮本課長、日本化学会の玉尾会長が、それぞれの立場から「化学が創るニッポンの未来」について意見を交わしました。藤吉会長は、日本の化学技術について「顧客の要望に応える技術力がある」との認識を示しました。宮本課長は、日本の製造現場の「現場力が低下してきており組織力を高める必要がある」と強調。玉尾会長からは、「産・官・学の連携と定年退職後の熟達頭脳の活用が必要」との意見が出されました。討論では、化学産業の未来について、新興国との競争力を高めるために、優れている素材・部材・技術を使った課題解決型のビジネスモデルを構築する必要があるとの認識が示されました。



第7回

レスポンスブル・ケア賞が決定し、表彰式と受賞講演が行われました

5月17日開催の日化協理事会にて、第7回のレスポンスブル・ケア賞が決定し、5月29日開催の日化協総会にて、高橋会長から表彰楯が授与されました。また、5月30日開催の「日化協シンポジウム2013」において、受賞された各グループの代表の方から受賞（活動）内容の紹介が行われました。

受賞者名、受賞テーマ、活動内容の概要は下記の通りです。



受賞会社、受賞者名	受賞テーマ	活動内容（概要）
JSR (株)千葉工場 森田 弘一、五十嵐義雄、 加藤 昌彦、山口 智大	JSR (株)千葉工場の CO ₂ 排出量低減活動	JSR (株)千葉工場では、1990 年度比で 2011 年度の製造量は 25% 増加しているが、製品製造工程での溶剤の見直しや溶剤回収エネルギーの削減など、部門をまたいだ省エネルギー活動の展開により、二酸化炭素排出量を 1990 年度比で 2011 年度には 16.6% 削減した。原単位換算では 33% の削減を達成した。
三井化学(株) 土肥誠太郎、井手 宏、 村田 陽稔、岡崎 浩子、 赤築 綾子、伊東 大輔、 横田 直行	三井化学における メンタルヘルスの 継続的改善活動	全社メンタルヘルス増進計画を策定。メンタルヘルス不調者への対応・再発予防という個人別の対応だけでなく、新入社員向けのメンタルヘルス対策や「職場ストレス度調査」を活用した職場のコミュニケーションの向上および職場風土改善活動を全社的に且つ継続的に実施している。
三菱化学(株)四日市事業所 市川 稔倫、徳永 英司、 水谷 功司、堀 香奈子	廃棄物ゼロエミッション	全社方針として、「2010 年度までに埋立て廃棄物量を発生量の 1% 以下を達成する。」という廃棄物ゼロエミッション目標を掲げた。四日市事業所では埋立廃棄物の再資源化に積極的に取り組み、2007 年度に 2899 トンあった埋立廃棄物量を 2011 年度には 168 トンまで削減し、廃棄物ゼロエミッションを達成した。
三洋化成工業(株) 坪内 隆、村崎 直樹、 藤田 良一	廃棄物削減チャレンジ	廃棄物を①減容化、②原燃料に有効利用、③有価物として売却、④排水として処理、プロセス改善、⑤排出量削減、⑥製品収率向上することで、排出量を 2007 年度比 30% 削減し、その状態を 2011 年度まで維持している。また、チャレンジ契約制度という従業員の自主的活動を支援するシステムを導入し、成果を上げている。

受賞内容発表の皆様



JSR (株)森田氏



三井化学(株)土肥氏



三菱化学(株)市川氏



三洋化成工業(株)村崎氏

平成25年度 安全シンポジウムを開催

平成25年度の第37回日化協安全最優秀賞、安全優秀賞が決定し、6月21日に安全シンポジウムが発明会館（東京虎ノ門）にて開催されました。

活動事例発表

旭化成ケミカルズ株式会社 鈴鹿事業場（田丸 事業場長）

- ・鈴鹿事業場は昭和28年に操業を開始し主要製品はサランラップ、サラン繊維、サランフィルムなどです。
- ・従業員数は協力会社を含め約880名で、製造工程は樹脂を原料としたフィルム、発泡体、紡糸などの樹脂加工が中心です。ロール等の回転体、ピンチポイントが無数にあるプロセスで機械的リスクの高い工場です。平成9年から無災害を継続し、現在1740万時間を超えています。
- ・笑顔に溢れた生き生き職場の方針のもと、安全衛生管理体制をしき、各職場に適した活動に重点を置き現場主体の活動を推進してきました。特に高リスク作業の洗い出しを中心に機械的リスク低減活動を進めました。また、安全人間づくり活動として個人の安全意識を高めるなど、一人ひとりに安全活動が浸透するよう取り組んできました。



旭化成メタルズ株式会社 友部工場（大塚 工場長）

- ・友部工場は塗料、インキ用のアルミペーストの専用工場で茨城県笠間市にあります。昭和49年に操業を開始し、その後、品質、環境のISOを取得し、日化協安全努力賞を受賞するなど、安全活動に関しての表彰を受けてきました。
- ・アルミペーストの製造プロセスの特徴として、バッチ生産、手作業が多く、危険物やアルミニウム粉を多量に扱うことから、爆発、火災の危険性も高い職場ですが、1990年から無災害を継続しています。
- ・1990年の第1段階では危険予知、HHK提案活動を中心に進め、現在は第3段階として、安全基本行動遵守活動、小集団改善活動による安全意識の高揚を推進しています。タイムリーな安全表彰制度や無事故、無災害を達成した年の12月には安全ケーキを配るなど、小集団活動の活性化を図っています。



昭和アルミニウム缶株式会社 小山工場（佐伯 工場長）

- ・昭和アルミニウム缶小山工場は1969年に日本初のアルミ缶製造販売会社として栃木県小山市に設立され、1971年からアルミ缶の製造を開始しており、世界最速の生産性を誇っています。
- ・全員の知恵と技術力を結集して、立ち止まらない進化する工場になろうという小山工場基本方針のもと、重点課題を設定し、1995年から無災害を継続しています。特徴として、回転機器やシリンダ等の駆動機器が非常に多く、災害の特徴として、類別では「挟まれ・巻き込まれ」が多くなります。
- ・安全活動としては、リスクアセスメントによる危険点つぶしとして挟まれ・巻き込まれ危険個所の総点検等や、安全意識レベルの向上としてヒヤリハット活動等に取り組んできており、労働災害ゼロを目指し、自分たちの安全は自分が守るという強い意志を持って職場の完全無災害に取り組んでいます。



昭和電工株式会社 先端技術開発研究所 (坂口 コーポレートフェロー)

- ・先端技術開発研究所は昭和電工の開発の中心であり、千葉県千葉市に1994年に開所しました。従業員数は約140名で女性が2割を占め、開所以来無災害を継続しています。
- ・レスポンシブル・ケアの基本理念として安全の確保と環境の護持をすべての研究活動に優先させるとして、安全活動等を推進してきました。2009年にはOHSAS18001を取得しています。
- ・安全の取り組みとしては労働安全衛生マネジメントシステムによるリスクアセスメントの活用、ヒヤリハットの活用、薬品の管理と新規実験事前審査、安全教育などを推進してきました。今後も「創る安全」で無災害記録の更新を目指し、さらなる一人ひとりの安全意識の向上などにより一層活動を推進していきます。



田岡化学工業株式会社 淀川工場 (藤井 工場長)

- ・田岡化学工業淀川工場は大阪市淀川区の神崎川沿いの旧工業地帯の一角にあり、周囲は民家に囲まれ、公害対策等には強く注意を払っています。大正11年に染料を中心に操業を開始し、精密有機化学品、機能材など少量多品種生産工場です。
- ・田岡化学工業の基本理念は安全をすべてに優先させることを基本に、①顧客重視、②無事故、無災害、無公害、③社会との共存共栄を優先事項としてOHSMSを取得し取り組んでいます。
- ・淀川工場として安全衛生スローガンを掲げ、重点実施項目を定め、特に、リスクアセスメント活動やコンパクトTPMとしての目に見える管理の充実を中心にリスクの低減や設備管理の徹底など、社員全員で安全活動に取り組んでいます。



パネルディスカッション



事例紹介に続き行われたパネルディスカッションでは、田村安全表彰会議議長の司会で、事例発表いただいた各事業所代表と日化協・春山常務理事がパネラーとして参加し、ディスカッションしました。「いかにして無災害を継続するか」についてご討議いただきましたが、はじめに、最近の化学工場の事故について、春山常務理事より保安事故防止ガイドライン等の日化協における保安防災への取り組み状況の紹介と各パネラーの保安防災への取り組みについての問いかけがありました。

各事業所代表から最近の保安防災の強化活動について説明があり、

事故の要因の共有化や防止対策について議論されました。次に、事業所トップとして安全に関し最も注力していることはなにか、これまで無災害を継続できたポイントはなにかについて意見交換され、続いて、会場からの質問に対し安全に関するトップの考えなどについてご紹介いただきました。会場からたくさんの質問をいただき活発な討議となりましたが、特に、リスクの洗い出しやリスクアセスメントの具体的方法等に関する質問が多く出され、各パネラー

から貴重なご意見を伺うことができ有益なものとなりました。

ディスカッションの結びに、春山常務理事より討議全体に対する感想と今回のディスカッションでの共通項としてコミュニケーションの重要性が挙げられました。最後に田村議長から閉会の挨拶と企業における保安防災、安全の重要性とさらなる安全成績の向上への期待について有意義なお言葉をいただき、皆で安全活動の重要性を再認識し閉会となりました。



RCLG 会議



春の定例 RCLG (レスポンシブル・ケアリーダーシップグループ) 会議が、2013 年 4 月 22 日 (月)、23 日 (火) の 2 日間、中国北京のケンピンスキーホテルで開催されました。また、翌日 24 日 (水) には中国の RC 大会、4 月 25 日 (木) と 26 日 (金) の両日には、ICCA の運営委員会が同会場で開催されました。ICCA では中国とインドへの RC 普及を重要課題と考えており、今回、中国における RC 普及・推進を側面より支援することを目的として、運営委員会と RCLG 会議を北京で開催しました。

今回の RCLG 会議の重要議題は、① 2013 年の活動計画確認、② 2011 年の活動状況調査報告、③ RC 世界憲章改訂、④ プロセス安全指標、⑤ RC 検証活動の共有でした。概要は以下の通りです。

- ① 2013 年秋の RCLG 会議がカナダのモントリオールで 11 月 5 日 (火)、6 日 (水) に開催されること、10 月 9 日 (水)、10 日 (木) に APRCC (アジア・太平洋レスポンシブル・ケア会議)、翌日の 11 日 (金) にプロセス安全ワークショップがタイで開催されること等が紹介されました。
- ② 2011 年の KPI (Key Performance Indicator)、RC 活動調査、GPS 活動調査結果の纏めの報告が行われました。日本が支援した韓国の協会 (KRCC) と AICM (中国に進出した多国籍化学企業の協会) が、昨年度の「進捗が遅い協会」という評価を脱し、「順調に活動が行われている協会」として評価されました。一方で、欧州では KPI を報告しない協会が散見



会場付近の様子

されています。

- ③ 2006 年に制定、公表した RC 世界憲章は文章が分かりにくいという声があり、さらに最新の状況を取り込むために改訂することとなり、タスクフォースを立上げて内容を見直していることが紹介されました。
- ④ プロセス安全指標 (PSM) を決めるタスクフォースの活動状況が説明されました。これまで 2 回の電話会議を開催して、米国規格である ANSI/API-754 の Tier 1 / Tier 2 分類に基づいて議論していることが報告され、6 月 13 日 (木) と 14 日 (金) にワシントン DC でタスクフォース会議を開催することが紹介されました。
- ⑤ カナダ、日本、シンガポール、スペインの検証活動についての紹介がありました。日化協からは日化協の検証センターの活動について紹介しました。カナダでは、3 年に 1 回、NGO や教育関係者などの第三者による検証を受けることになっているとの紹介がありました。また、シンガポールの協会からは、検証活動を含む RC 活動のプレゼンが行われ、検証については自己検証にとどまっているが、2012 年には会員企業全社の自己検証実施率が 100% を達成したとの紹介がありました。

最後に、スペインからは ISO14001 と OHSAS18001 の認証 (Certification) と RC コード検証を合わせた独自の検証システムが紹介されました。ボランティア活動である RC と認証システムである ISO 等の規格がマッチするのかは、議論があるかとは思いますが。

その他 RC 活動の拡大について、日本が活動を支援しているミャンマーとベトナムの RC 活動の報告が行われました。ミャンマーは昨年 RCLG に加盟したため本会議に参加して報告を行いました。RCLG メンバーでないベトナムの活動報告については、日化協が代わって行いました。



ヤンゴン市街の様子

APRO（アジア・太平洋レスポンシブル・ケア機構）定例会議を、民主化が進み世界各国から注目を浴びているミャンマーのヤンゴンにおいて、AMEICC（日・ASEAN 経済産業協力委員会）の日程に合わせて6月19日（水）に開催しました。

AMEICCに参加したタイ、マレーシア、シンガポール、インドネシア、ベトナム、ミャンマー、日本（議長協会）の7協会から代表が参加し、①第13回 APRCC（アジア・太平洋レスポンシブル・ケア会議、タイ開催）、②APRCCと併催のプロセス安全ワークショップ、③プロセス安全タスクフォースの活動状況、④APROメンバーへの日化協 Best Practice の共有等について議論を行いました。

まず、タイの協会より、本年秋のAPRCCについて、2013年10月9日（水）、10日（木）にタイのパタヤで開催予定であると紹介がありました。

その後、各セッションでのセッションチェアと講演者について議論を行い、日本からは、セッションチェアと講演者を1名ずつ出すことを表明しました。また、APRCC前日の10月8日（火）の夕刻に本年度第2回の定例APRO会議を行うことを決定しました。

引き続きAPRCCと併催するプロセス安全のワークショップについて、討議を行いました。日化協より保安防災と労働安全衛生に関する Best Practice 共有の講演をすることを申し出ました。プロセス安全は世界的に注目を浴びているため、このワークショップでの日化協の貢献はアジア地区での日化協の評判をより上げる良い機会になるものと考えています。

次いで、ワシントンで開催されたRCLGのPSM（Process Safety Metric）タスクフォースのFace-to-Face会議の内容を、会議に参加した日化協より説明しました。今回のタスクフォース会議に参加した欧米からの参加者の目的（欧米で行っているプロセス安全指標を一つのものにする）と、日化協参加者の目的（RCLGメンバーが報告するプロセス安全指標を決める）の認識がずれていたことを説明しました。今後、欧米中心の考え方に基づいたPSM案がまとめられ、RCLGに提案されることになるであろうと参加者に説明しました。

また、日化協会員の Best Practice をAPROメンバーと共有することを考えていると紹介し、優先順位の高いと考えられる保安防災（Process Safety）と労働安全衛生（Occupational Safety and Health）を最初のテーマとして取り組みたいこと、および最初の共有の機会をタイでのプロセス安全のワークショップとしたいことを表明しました。



会議参加者たちと

推定される。特に、木造密集地域での延焼阻止は重要課題となる。

化学業界に対する希望としては、安否確認システム、火災対応、プラントなどの耐震対策、サプライチェーンの早期回復などがある。東海地震が起こった場合、日本の基幹産業である自動車製造関連工場が被災する可能性があり、化学製品は自動車に多く使われているので、供給再開を早くできる体制を構築しておいて欲しい。

2. 消防庁指針の紹介



日本ペイント(株)安藤研司氏

東日本大震災の震度により設備被害が異なることが紹介された。震度6以上では製造施設の約2.6%、震度5以下では0.2%が被災していること、津波による浸水深度が3mを超えなければ被害がない傾向にあることが

紹介された。

また、東日本大震災では臨時の給油所や化学物質保管の許可を得るのに時間を要し、復旧を遅らせる要因となった。そのため、現在では、予め消防署と緊急時の対応について協議しておき、緊急時には給油所や化学物質保管の迅速な設置が可能となる手続きが認められていることが紹介された。

3. 会員企業からの事例発表



(1) 発表

「東日本大震災時の被害と復旧状況」：三菱化学(株)

大阪会場：長野克彦氏

東京会場：隈圭司氏

三菱化学(株)鹿島事業所紹介の後に、鹿島地区の工業団地造成の概要説明があった。



東日本大震災の震度6弱の揺れに対してプラントの被害は限定的であり、インターロックシステムが作動して安全に停止した。液状化により埋設トレンチが浮き出たため、当該トレンチをオーバーガーダー式に変更した。一部の配管に変形が見られた。

低い土地は浸水した。また、津波により、漂流大型船が棧橋やローディングアームに変形を与えた。

鹿島地区では用役だけでなく原料を上流側の会社に

依存しているために、常時より活動していた工場長懇談会を中心とした相互協調・連携の基盤が機能し、被災後や運転再開時の情報交換をスムーズに行うことができた。

また、ガソリン不足などによる従業員の通勤対策として、臨時通勤バスを走らせたことも紹介された。



(2) 発表

「東日本大震災に対する本社対応の反省と今後の対応」：花王(株)

本間康弘氏

事業内容や製造・物流・販売拠点などの紹介の後、東日本大震災の影響、被災状況、復旧状況、地震・津波に対する対策の見直しについて説明があった。

花王の事業は「ビューティケア」「ヒューマンヘルス」「ファブリック&ホームケア」「ケミカル」の4事業に大別され、それぞれ、東と西に製造拠点、全国に物流・販売拠点を持っており、一方が被災しても補完できる体制になっている。震災直後には初動対応として安否確認、被害情報などの情報収集、社外に対しての情報発信などを行っただけでなく、商品供給の優先度決定、原材料調達なども行った。約13,600人の安否確認には時間が掛かり、安否確認システムに入力されたのは発災日が9%、72時間後で77%の入力率であり、震災後、安否確認システムはweb方式に変更された。

東日本大震災での経験を生かして、初動体制の明確化、防災対策本部設置場所の確保（東西に代替場所を設定）、安否確認システムの変更、被災地との連絡用に衛星携帯電話の増設、非常食の変更と追加、救援物資要請窓口の明確化、転倒防止基準の見直しなどを行っている。

東日本大震災での経験を生かして、初動体制の明確化、防災対策本部設置場所の確保（東西に代替場所を設定）、安否確認システムの変更、被災地との連絡用に衛星携帯電話の増設、非常食の変更と追加、救援物資要請窓口の明確化、転倒防止基準の見直しなどを行っている。

4. 分科会

分科会テーマとして、本社や事業所が被災した時の対応について取り上げ、大阪では4分科会に35名、東京では5分科会に53名の方の参加を得て、いずれの分科会でも熱のこもった情報交換が行われた。





保安事故防止ガイドライン説明会を開催しました

2013年4月に初版を発行した一般社団法人 日本化学工業協会「保安事故防止ガイドライン」の会員向け説明会を、4月26日(金)、5月8日(水)は日化協がある住友六甲ビルで、5月10日(金)には関西化学工業協会と共催で、大阪・薬業年金会館にて開催し、会員各社や行政機関などから約150名の方に参加いただきました。

化学企業においては、日ごろ保安事故防止のためにゼロ災害を目指した日常活動を鋭意展開してきましたが、2011年、2012年と化学産業における化学プラントの保安事故が増加傾向にあり、事象としても死亡事故を含む重大事故の発生が見られました。

こうした状況下で、「保安・安全の確保」は化学産業にとって最重要案件であり、日化協としても昨今の状況は、極めて深刻な問題であると認識していました。

そこで日化協としては、化学業界関係各位に働きかけ2012年9月に「保安事故防止検討ワーキンググループ(当初は保安事故防止検討会)」を発足し、事故の解析、情報の共有化、事故防止対策の検討を進めてきました。メンバーは、日化協の保安防災部会メンバー(企業メンバー)7社を中心に、協会・団体、学識経験者にも入っていただき、2013年3月まで10回の会合を行いました。そして今回、最近起こった3件の事故事例を教訓とした共通的な問題点を中心に、今後大きな事故が起こらないようにするために、「保安事故防止ガイドライン」をま

とめました。

このガイドラインは、4月中旬に日化協のウェブサイトの会員向けページに掲載し、4月末には冊子として各会員に送付しましたが、詳しい内容について充分にご理解いただいた上で、実際に各会員の第一線の製造現場で活用していただくために、今回の説明会を開催しました。

説明会は各回とも、日化協事務局からのガイドラインの内容、活用方法等の説明の後、出席者からのご質問、ご意見をいただき、約1時間半で行われました。

事務局からの説明では、「各社の製造現場の第一線で具体的な再点検・確認を行うために使っていただくことが重要であること」、「各社で活用していただく際には、コミュニケーションツールとしても利用していただきたいこと」を強調し、一方、出席者からは、幅広いご質問・ご意見をいただきました。

今後は、本ガイドラインを使用した結果を、アンケート方式で当協会までフィードバックしていただくと共に、その結果を基にさらなるガイドラインの見直しにつなげていく予定です。



『シンガポール・ケミカル会勉強会』開催報告

2013年6月19日(水)、シンガポール日本人会館にて、第5回勉強会(主催:シンガポール・ケミカル会、日化協、協力:化学工業日報シンガポール支店)を開催しました。この催しは化学産業に関わりのあるシンガポール日系企業に、日本の化学産業を取り巻く状況を報告するとともに、海外現地法人の要望やニーズを把握し、今後の活動に繋げるために官民一体で始めたもので、年に1回開催しています。

経済産業省宮本化学課長をはじめ、シンガポール・ケミカル会メンバー、日化協関係者など55名が参加し、報告会・懇親会とも活発な情報交換・意見交換が行われました。

勉強会の概要は以下の通りです。

1. 「化学産業における国際標準化の目指すべき方向」(日化協)

- ・国際標準への対応は、企業の国際競争力強化とその戦略に不可欠。
- ・産業基盤として、互換性の確保、多様性の制御、品質の確保に繋がる。また、事業戦略として、新技術の普及、競争力強化、利益の確保のために重要であることを強調。
- ・標準化と知財との組み合わせ、官民連携、川下との連携などの課題と対応についても紹介。

2. 「東南・東アジアの規制動向」(日化協)

- ・アセアン各国の化学品管理の最新状況の報告と「アジア・サステナブル・ケミカル・セーフティープラン」の取り組みと進捗状況を報告; リスクベース評価・管理の手法と化学品管理データベースの構築。

- ・最近公布された化学物質管理登録制度; 韓国「化評法」、中国「危険化学物質登録管理弁法」の概要説明と留意すべき点について解説。

3. 「成長戦略について」(経済産業省製造産業局化学課)

- ・アベノミクス成長戦略「三本の矢」のうち、「第三の矢: 企業や国民の自信を回復し、期待を行動に変える新たな成長戦略」について概説。
- ・取り組みのキーワードは、「大胆(に解決)、迅速(な政策の実行)、進化(し続ける成長戦略)」。
- ・成長戦略の3つのプラン「日本産業再興プラン」、「戦略市場創造プラン」、「国際展開戦略」の具体的な計画について紹介。
- ・エチレンバランス、シェールガス情報をまじえて、「世界の石油化学製品の今後の需要動向について」紹介。



夢・化学-21 「子ども化学実験教室 in 新潟」開催

～見て、参加して、挑戦して、不思議な化学の世界を楽しもう～

化学の学会ならびに産業界で組織する「夢・化学-21」委員会^{*1)}は、「子ども化学実験教室 in 新潟」を6月1日(土)、2日(日)に新潟県立自然科学館(所在地:新潟市中央区女池南3-1-1)で開催^{*2)}し、二日間で小学生、保護者の皆様など約1,500名にご参加いただきました。

「夢・化学-21」委員会では、化学の面白さや不思議さ、化学産業の社会への貢献などを、次代を担う子どもたちや保護者の方々および広く一般の皆様を知っていただくために、「夏休み子ども化学実験ショー」や「わくわく理科・実験教室」など実験体験イベントを開催しています。従来は、東京のみの開催でしたが、より多くの子どもたちに化学の面白さを知っていただくよう、地方開催の第二弾として、このたび「子ども化学実験教室」を新潟で開催しました。今回の新潟での開催に際しては、日本化学工業協会の会員企業である、信越化学工業株式会社 直江津工場にご協力をいただきました。

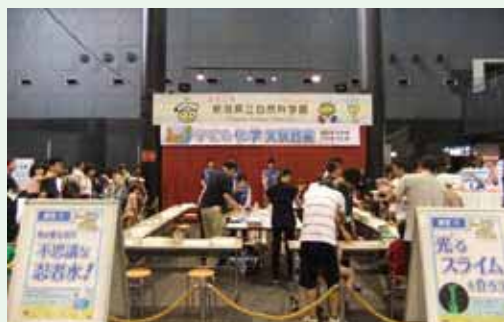
実験教室は、2013年6月1日(土)・2日(日)の二日間、1) 11:00~12:00、2) 13:30~14:30、3) 15:00~16:00の3つのパートに分けて開催しました。実験内容は、

「光るスライムを作ろう」、「忍者水を作ろう」の2つのテーマを中心に実施しました。訪れた子どもたちは、水溶液が固まる様子や、色が無色から青色に変化する様子などを体験し、歓声をあげながら喜んでいました。この催しが、身近なところにたくさんある化学にもっと皆様の関心が寄せられる一助になれば幸いです。

なお今年度は、この後10月に盛岡、2014年1月または2月に関西での開催を予定し準備を進めています。

*1) 「夢・化学-21」委員会: 公益社団法人日本化学会、公益社団法人化学工業会、公益社団法人新化学技術推進協会、一般社団法人日本化学工業協会で構成

*2) 主催: 「夢・化学-21」委員会、共催: 新潟県立自然科学館、協力: 公益財団法人科学技術広報財団



Index

日化協 第22回 定時総会が開催されました。	2
安全表彰、技術賞、レスポンシブル・ケア賞の表彰式を実施	5
from Members【第65回】	6
ダイキン工業（株） 執行役員 化学事業部長 酒井 弘雄さん	
RCの現場を訪ねて 北興化学工業（株） 新潟工場 （株）JSP 鹿島工場	8
日化協シンポジウム 2013	10
第7回 レスポンシブル・ケア賞が決定し、表彰式と受賞講演が行われました	11
平成25年度 安全シンポジウムを開催	12
RCLG会議	14
APRO会議	15
地震・津波対策交流会	16
保安事故防止ガイドライン説明会を開催しました	18
TOPICS	19
RC委員会だより	20

RC委員会だより

☆会員動向（会員数：105社 2013年7月末現在）

入会

▶アクサルタ コーティング システムズ合同会社（2013年7月1日付）

☆行事予定

9月19～20日 リスクコミュニケーション研修（東京地区）
 9月27日 会員交流会（九州）
 10月9～11日 APRCC 会議&プロセス安全ワークショップ（タイ・パタヤ）
 11月6～7日 RCLG 会議（カナダ・モントリオール）
 11月22日 地域対話（山口西地区）

表紙写真の説明

カーボンブラック工場のフレアスタックと夜景

洞海湾越しに見る工場夜景は、洞海湾をめぐる北九州市工場群夜景鑑賞ツアーの中でも注目をされるようになりました。人気の夜景スポットの一つです。

東海カーボン㈱提供

編集後記

●● 7月の記録的な猛暑に始まり、今年は暑い夏ですね。夏の風物詩である花火についてですが、花火には不思議な力があって、花火を見ながら今はもう会うことのない懐かしい誰かのことを思う時、相手もどこかでこちらを思い出しているものなんだそうです。これはとある小説からの受け売りですけど、そんなことって本当にありそうでロマンを感じます。

●● 暑い夏もそろそろ秋にバトンタッチ、夏の思い出はできましたか。

